

2009年11月20日

ハロウィーンフェスティバル2009 in 貝殻亭 報告

【主旨】

エコに対する意識、子供たちの未来環境について考えてもらうきっかけとする。
地元の方々にご参加いただくイベントにすることにより、地域の活性化を図り、
同時に参加いただく皆さんにも楽しんでもらえるイベントとする。

【開催期間】

2009年 9月・10月

【開催店舗】

仏蘭西料理 貝殻亭・Le jardin du Soleil

【実施内容】

- ①廃油キャンドルを作ろう！教室
- ②エコ50本のキャンドルナイト
- ③廃油で作ったキャンドルを募集！
- ④八千代産のカボチャでお化けを作る！体験教室
- ⑤Trick or treat で始まる会話あふれる町

【ご協力いただいた企業・団体・個人】

八千代市社会福祉協議会

八千代市立村上小学校

八千代市自治会 村上支会

菅原工芸硝子（株）

東洋佐々木ガラス（株）

砥部焼窯元

太宰正敏税理士事務所

高橋農園

（順不同、敬称略）

【告知方法及び記事掲載について】

弊社HP 専用サイトによる告知

ukiuki新聞 10月9日号広告にてイベント紹介

地域新聞 10月16日号（八千代台、佐倉西版）広告にてイベント紹介

ハリュースプレスにてプレスリリース配信 9月10日

全国紙、地域紙へプレスリリースを郵送（24通）

→（読売新聞千葉版10月15日号に記事を掲載いただきました。）

専用チラシ2種類を作成し貝殻亭リゾート各店頭にて配布

【実施事項の結果報告】

① 廃油キャンドルを作ろう！教室

日時 9月20日 10:00～

場所 「Le jardin du Soleil」2F Cafe

参加者 弊社HPに応募されたご家族 5組 13名様

料金 お一人様 ¥500（器1個につき）

ご持参頂いたもの 廃油 1個あたり100ml

当社で用意したもの

キャンドルの器（砥部焼窯元さんからお譲り頂いた2級品）

油脂凝固材、アロマオイル、竹串、たこ糸、カセットコンロ、鍋

当日の状況

最初に見本としてキャンドル作りを実演。その後、各グループに分かれて製作を開始。小さな子供には糸を燃やすことが結構難しい様子。必要に応じて保護者が手助けをして完了。キャンドル作り自体は比較的簡単ではあるが、製作中は廃油を熱するため火傷に注意が必要。

今回は時間短縮のために、水を張ったバットに作成したキャンドルを入れて、冷却を早める。(早いものは10分程度で固まる。)

砥部焼は丈夫なのでこのような手法を用いたが、ガラスの器を使用する際には、止めた方が良いと思われる。固まるまでの時間が長いと、小さな子供には間が持たないので、この時間を利用し、切り紙細工をして過す。作り終わった頃には、全てのキャンドルが固まり完成した。

終了までかかった時間は約1時間。楽しんでいただけた様子



②エコ50本のキャンドルナイト

村上支会の皆様が50個、村上小学校4年生の皆さんが320個作ってくださったキャンドルを10月16日～31日の夕刻より仏蘭西料理 貝殻亭とLe jardin du Soleilの周囲で点灯する。

(雨天にて点灯できなかったのは3日間)

作っていただいたキャンドルの中には油が完全に固まっていないものや、芯が抜けてしまったものもあったが、風が吹くと消えてしまうのではという不安には耐えうるものであった。

次回の改善策として、もう少し芯を太いものを使用すれば、さらに良いものになると思われる。

通りすがりの方々からはきれいだとの声が聞かれた。またキャンドルを作ってくれた村上小学校の生徒さんの家族連れも、時折ご覧に来られ自分で作ったキャンドルがないかと探したりする姿が見られた。

連日、点灯と消灯、片付けに予想外に時間がかかり、期間の短縮も今後の検討課題。



③廃油で作ったキャンドルを募集！

HPで募集をおこなったものの、残念ながらメールにての応募は無かった。ただし電話での問い合わせが2件あり、募集要項を説明したところ、団体で(5名以上)という点がネックとなって参加を見送られた。また、取りに来ていただき、完成後お持ちいただくという点も障害となった可能性あり。作ったキャンドルがもらえるものと勘違いをされて電話をされてきた方もいらっしまった。

④八千代産のカボチャでお化けを作る！体験教室

日時 10月11日 10:00~

場所 「Le jardin du Soleil」 2F Cafe

参加者 弊社HPに応募されたご家族 6組 20名様

料金 1家族 ¥1000 (小さいかぼちゃの方は¥500)

持参頂いたもの カッターナイフ、スプーン、マジック

当社で用意したもの かぼちゃ大4個、小2個 (高橋農園から譲っていただいたもの)

参考用にお化けカボチャのイラストをwebからダウンロード

当日の状況

マニュアルに従って、子供たちに下書きを書いてもらう。その後カッターを使い、フタの部分を取り抜く作業からは保護者をお願いする。スプーンを使い種や繊維をかき出す段階は子供たちに。目や鼻をくり抜く所は必要に応じて保護者がヘルプ。賑やかでたのしいひと時が過ぎた。完成までに1時間程度。後日、感謝のメールを2通いただく。

高橋農園さんからは10個のカボチャをいただいたものの、虫食いが生じているものがありお化けカボチャ作りに適さないものがあり、結果として6組の方に限らせてもらうこととした。趣味で作られていたものを無料譲っていただいたので止むを得ないが、次回への課題として、商品として栽培いただき、有料にて分けてもらう形が必要と考えられる。そのためには年明け1月~2月の時期に要望個数を連絡する必要あり。



⑤Trick or Treat で始まる会話あふれる街づくり

この点に関しては告知が不足していたのか、全般的に、盛り上がり欠けた感あり。

ひとつには未だ Trick or Treat が日本には定着していないという現実もある。さらには子供心にも恥ずかしさがあるのか、こちらからの誘導にもなかなか声が出ないお子さんが多い。

リゾート内に大きく目立つような告知が必要かと思われる。

次回への課題

【エコキャンドルに関して】

器の確保（数量の事前把握）→ 実施規模を判断

小学校のカリキュラムの一環としてのキャンドル作り→その学区近辺でのイベントが妥当。

実際にキャンドル点灯に賛同いただける団体が増えれば、一定の供給量を考えた場合、各箇所での点灯量は減少する。（1ヶ所あたりのボリューム、期間の検討が必要）

屋外でのキャンドル → 火の取り扱いに注意が必要。（管理体制の徹底）

場合によっては廃油の確保という問題も想定しておく必要あり。

地域社会の活性化として考えた場合、一定のエリアにおいて、ある程度の集中的展開が必要。 →

賛同いただく企業、団体への働きかけには一企業としては限界があり、所属する商店会、商工会議所、食品組合、青年会議所などとの連携を視野に入れる必要あり。

【お化けカボチャ作りに関して】

お化けカボチャ作りのノウハウの認知度は意外に低いと思われる。ひとつにはハロウィーンが日本においては単なる商戦的イベントとして捉えられているためか。

八千代産のお化けカボチャにこだわり、その復活、さらには認知度UPには、商品としてのカボチャ栽培を依頼し、購入できる体制を作ることが必要。（カボチャの見栄え、均一的なサイズが求められる。収穫時期から半年以上前から準備が必要であり、事前にどこまで拡大できるかの判断が求められる。）

イベントとしてのお化けカボチャ作りによるコンテスト、また学校などでカリキュラムの一環として作ってもらえる可能性は高いと考えられる。

カボチャの購入資金、イベントの開催場所、主催者などの問題をどうするか？解決すべき問題多い。

最後に

村上小学校、村上支会の皆様にお作りいただいたエコキャンドル合計 370 個につきましては、1 個当たり 50 円で合計 18,500 円。さらに、この活動にご賛同いただきました太宰会計事務所様からの 7,000 円を合わせた合計 25,500 円を八千代市社会福祉協議会に寄付させていただきます。

ご協力をいただきました皆様に厚く御礼申し上げます。